

響のないことを証明した。

27. 結核菌に於る formate の酵素的固定と此れに及ぼす PAS の影響 勝沼信彦・正田 亨 (名大生化学)

われわれは初めて結核菌無細胞抽出液で葉酸への formate の固定, すなわち formate fixation enzym の助酵素の生合成を葉酸, formate, homocysteine, ATP, Mg⁺⁺, Vitamin C の系で行い20~30%の収量を得た。成生物は P.P.C. で分離し Leuconostic Citrovorum 菌による Bioassay で定量した。その結果, Bioassay 陽性の二物質の生成を確認し, Rf や吸収スペクトルから一つは N-5-formyl-FAH₄ すなわち今日までそう呼ばれている Leucovorine であり, 他の一つは255, 365m μ に極大吸収を持つもので葉酸の formyl 誘導体には間違いないが不明, 吸収曲線は N-10-formyl FA に一致する。なお, この反応を PAS は全く阻害しない。したがって今日ま

でにわれわれは PAS が formate fixation enzyme の生合成を阻止することを報告してきたけれど, その直接侵襲点は不明であつたが, この実験により葉酸までの生合成を阻止することが明らかとなつた。

28. 8-Azaguanine の Mycobacterium avium に対する Mutagenic effect に就いて 野田 用 (国療大府荘)

Sauton 培地に 8-Azaguanine 10 γ /cc を添加して, これに Mycobacterium avium を培養して, 各培養日数における viable cells 当りの SM耐性菌(10 γ)の数を検索し, 対照と比較した。その結果培養日数7~14日で対照の10倍以上の SM耐性菌出現を認めた。8-Azaguanine で SM耐性菌が select されることはないので, 8-Azaguanine により induce された Mutation の増加と認められる。

訂 正

32巻1号(23頁)豊原氏原著中下記を訂正します。
右段23行目<菌株:患者の喀痰より分離培養したもの10株および>を左段表1上1行目〔(1)実験方法の直下〕に移し,表1下左段4行全部をその下に移す。

表1 (注)の中で s: 型→s: s型

結 核	第32巻 第2号	毎月1回15日発行
昭和32年2月10日印刷		定価 120円(千共)
昭和32年2月15日発行		(振替) 東京53756
編集兼 限 部 英 雄	東京 世田谷区 経堂460番地	
発行人		
印刷所 王 文 社	東京都中央区越前堀2ノ24	電話(55)5087・5088
発行所 日本結核病学会	東京都千代田区神田三崎町1ノ2	電話(29)1501~5